

建設リサイクル推進奨励表彰

表彰団体名	取り組み内容
秋田振興建設株式会社	<p>一般国道13号大曲バイパス内の道路改良工事によって発生した建設汚泥(253m³)を、ポンテラン工法により現場内で改良し、盛土材として使用することにより、リサイクルの推進を図った。</p> <p>建設汚泥の有効利用により、最終処分場の延命化に寄与するとともに、盛土材として利用する購入土の採取抑制による環境保全及びコスト縮減に寄与した。</p>
大森建設株式会社 秋田工業高等専門学校	<p>現場や生コンクリート工場で余剰となった生コンクリートから、生石灰処理で未水和状態のセメントを粉末で回収する技術を得ることができ、生コンクリートの配合材料を分離回収することが可能になった。</p> <p>本技術を実用化するために、最適な回収方法の確立と、回収した配合材料のリユース、リサイクル技術開発の研究活動、広報活動をしている。実際にコンクリートポンプ車の残コンクリート処理を行い、地盤改良材への適用実験なども行っている。</p>
東北地方整備局 福島河川国道事務所	<p>河川敷などから発生した松食い被害木や支障木については処理場での処分が一般的であったが、焼却処分による環境への負荷や、資源の有効活用、処分場の延命化などを目的に平成14年度から河川管理上必要となる水防看板や注意喚起看板のほか、ベンチ、昇降階段等の河川利用工作物、製紙材料、木炭化などを進め、資源の再利用活動を継続的に実施している。</p>
東北地方整備局 森吉山ダム工事事務所	<p>原石山からの材料採取工事において、当初の想定以上に廃棄岩の発生が見込まれたことから、廃棄岩発生の抑制、発生材の有効利用の促進に平成16年度から取り組んできた。</p> <p>材料採取の工夫による廃棄岩発生の抑制、低品質材の下流ロックへの活用、廃棄岩の道路盛土材及び貯水池法面保護材への活用を図ることにより、廃棄岩の新たな受け入れ地の確保が不要となるとともに、道路盛土材や法面保護材の新たな建設資材調達抑制が可能となりコスト縮減に寄与した。</p>
山形県庄内総合支庁	<p>飛島漁港は、山形県酒田市の北西約40kmの日本海上にある「飛島」という離島に建設された漁港であり、島内には、建設資材の生産施設や建設副産物の処理施設は存在しない。このため、建設資材は、そのほとんどを本土から運搬して工事を行っており、逆に、飛島での工事から発生した建設副産物は本土に運搬し、処理している。</p> <p>山形県庄内総合支庁では、平成16年台風により被災した飛島漁港防波堤の災害復旧工事において発生したコンクリート殻(3,943m³)や不要となったコンクリートブロック(1,517m³)を、ケーソン中詰材として再利用(リユース)することによって、搬出される建設副産物の抑制(リデュース)、及び、工事コストの縮減を図った。</p>

※順番は表彰者名称の50音順になっております。